

# 柞乃杜

秩父神社社報  
柞乃杜(ははそのもり)

第 61 号

令和 2 年 7 月 20 日  
(川瀬祭)



あらたふと

青葉

若葉の

日の光

はせを



**刀身彫刻**  
 表 秩父太菩薩  
 裏 梵字  
 「バイロ毘沙門天」  
 法量 長さ六八・六センチメートル  
 反り 二・二センチメートル

**裏**  
 作者備前国長船住左衛門尉景光進士三郎景政  
 正中二年七月日

### 御物太刀 景光・景政

銘表 願主武蔵国秩父郡住大

河原入道沙弥藏蓮同左衛門尉丹治朝臣時基於播磨国完栗郡三方西造之

### ◆秩父神社を巡る

三口の刀剣と武蔵武士(四) 短刀(謙信景光)から二年後の銘文を持つ、秩父神社ゆかりの太刀である。

## 解説 秩父神社(59)

杉山正司



埼玉県立博物館 特別展「美の匠たち」(平成8年) 図録より転載

鎬造、三ツ棟、鍛えは小板目で乱れ映り立つ。刃文は直刃調で互の目に丁子が交じる。

銘文から、作者は短刀と同じく備前国長船派の景光と景政の合作で、正中二年(一二三五)に作刀されたことがわかる。

また太刀には、表銘がある。銘は、裏に作刀者の銘を入れるのが通例だが、表銘には長文が刻まれている。内容は、太刀を奉納する願主は、武蔵国秩父郡に住む大河原入道沙弥藏蓮と丹治時基で、播磨国完(全)栗郡三方西でこれを造るといふものである。藏蓮は、出家名であるので、時基の父とみられ、父子で奉納したのである。この太刀で特筆されるのは、刀

### 大河原氏の祈りと願い

短刀の二年後、太刀を作刀して再び秩父神社へ奉納した理由は、何だろうか。

「武蔵国秩父郡住」と銘に刻んだ大河原沙弥藏蓮と時基。前述のとおり大河原氏は、播磨国三方西に移住している。それにもかかわらず「秩父郡住」と刻んでいる。その理由は、やはり本貫地の秩父を遙か播磨から思う武蔵武士の心を表しているのではないだろうか。しかも、当代一流の景光と景政を三方西に招き、実業鉄で作刀させ

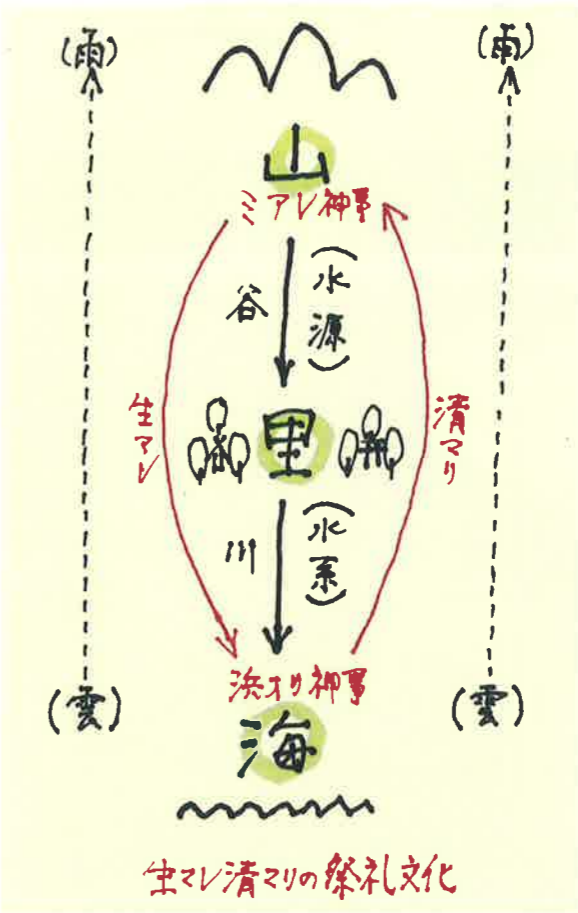
ていることは、高価である。かたりの無理をしてまで、太刀を作刀させ秩父神社に奉納したのは、父子の故郷秩父を思う気持ちがひと際強かつたのであろう。不安な新領地での日々の安穩と武運を、祖先以来信仰してきた秩父神社に祈りと願いを込めて奉納したことが推測できるのである。

### 秩父神社から太刀の行方

御物太刀は、何時秩父神社を離れたか定かではない。

歴史上に登場するのは、明治二十年(一八八七)海軍卿の川村純義伯爵家への明治天皇の行幸であり、その際に献上されている。天皇御自身、刀剣がお好きなおことからの献上であろう。こうして太刀は、御物となつて皇室に入り、我々の目に触れることはなかった。私事で恐縮であるが、筆者自身一度御物太刀を拝見し、埼玉の地に里帰りを実現したいとの思いを持っていった。再三にわたり宮内庁にお願ひし、まさに三顧の礼により貸与が実現。平成八年三月二十六日(五月六日まで)埼玉県立博物館(現埼玉県立歴史と民俗の博物館)において、特別展「美の匠たち」で公開することができた。

(埼玉県立歴史と民俗の博物館主任専門員兼学芸員)



## 日本の山岳列島に祖型を成す「生まれ清まり」の祭礼文化

ほぼ全島に涉つてモンsoon気候帯に包まれ、内陸の長大な脊梁山脈を水源に、大小の盆地に人里を営みながら海浜に達する水系という一、大気と水の循環に基づく豊かな自然の恵みを霊的な神仏の働きと心得て、季節の折り目ごとに山地から神霊の御生レ(出現・誕生) 神事を催し、そのためにも海浜に降りて清めの潮ごりをとる浜降り神事を心掛けるのが、全国各地のいわば「生まれ清まり」の祭礼文化であったのです。

# ポスト・コロナ時代と 万物共生みの生命文明

宮司 薗 田 稔

ことし令和二年の年が明けて、2020年の東京オリンピック・パラリンピックと共に、いよいよわが国ならではの御代替わりの新時代が拓かれると期待した矢先に、好事魔多しともいえるべきか、中国・武漢に発生した新型コロナウイルスが瞬く間に世界へ広がって、あたかも地上の全人類社会が第三次世界大戦下の非常事態に陥ったかの様相を呈しております。

しかしながら正直なところ、一般に疫病とか流行病とかいい、やや専門的に感染症と云って、細菌・ウイルス・真菌・寄生虫・原虫などの感染によっておきる病気が、今回のようにパンデミック（世界的大流行）を呈して、世の中の仕組みを根底から揺さぶるとは、思いも寄らぬ一大事でありました。

○ しかも、その依って来たるこの原因が、世の識者の指摘によると他ならぬ現人類が近現代に築いてきた科学技術文明とそのグローバルゼーション（世界化）だということだ。

たとえば問題の新型ウイルスにしても、元来は野生のコウモリに寄生する微生物で大きさは一万分の1ミリほど、電子顕微鏡でしか見えない。タンパク質の殻に遺伝子のヒモが入っているだけの単純な構造だが、他の生き物の細胞に入り込んで生存に必要なシステムを巧妙に乗っ取り、自分の分身を作り出して猛烈な勢いで増殖するというしたたかな寄生生物です。

ところが、ウイルス自体が地球上に誕生したのは約30億年前で

人類をはるかに凌ぐ生命体。以来さまざまな自然の生き物に寄生して共存してきたが、人間がその自然に立ち入れば、直接か間接かに感染して疫病化するのです。しかも一旦人体に感染すれば、現代のグローバルな大都市文明が働くモノ・ヒト・カネ・情報の大量・迅速な移動によって世界のどこにでもあつという間に拡散することになります。



○ ウイルス学者の指摘によると、二〇世紀以来の電子顕微鏡による発見で人や動物に潜むウイルスが現在は五千種類を超えているが、実は野生の哺乳類には少なくとも32万種類の未知のウイルスが潜んでいると推定されているとのこと。たとえ今回の新型コロナウイルスの大流行が数年内に終息するにしても、今後将来の世界は、いわば「ポスト・コロナ時代」として次々に出現する新たなウイルスとの対決よりも共生の可能性を模索することになります。

○ ところで過去の先人たちは、どのようにして流行病に対処してきたのでしょうか。古来、疫病が蔓延した原因には一般に不祀の神霊や死霊の祟り



によるものとされ、歴史時代には須佐之男命・牛頭天王や瘡瘡神などの霊威神や無念の死を遂げた人物の怨霊（御霊）の仕業とも畏怖されて、いずれもその憤怒を鎮め和める神事や祭礼をもって疫病を収めるしか、ほかに特段の手立てもなかったと思われま

要は、疫霊の跳梁を鎮める工夫であったのでしよう。

明治近代化に伴った西洋医学の普及が疫学の発想を広めて、天然痘やペスト、コレラ、結核、インフルエンザなどの感染症を疫霊の所業から解放し、病原菌からの防疫療法に取って代わって以来今日まで、いまでは至って手軽に菌類やウイルス類を薬殺してはばからないようになっていきます。

○ ですが、今回のようなコロナ禍のパンデミックが今後未来の人類文明をたびたび脅かすようになって、いつまでもこだわる人権至上の生命主義に、いつか微生物の立場から反旗をひるがえすことが果たしてあり得ないか。

○ 要は、第三次世界大戦の「目にもえぬ敵」とするコロナ・ウイルスを徹底的に抹殺して地上に人類至上の生命文明を打ち建てることのできるか。そうした欧米式の対決姿勢で、地上に生存する動植物やウイルスなどの微生物との壮大な生態系を利己的に搾取し続けられるか。そうではなくて、たとえ

ば地上の自然万物の生きた霊性を目に見えぬカミ（神霊）とも感得する日本人古来の感性と、その感性を「山川草木悉皆成仏」と表現した日本仏教の智慧とを活かして、たとえ新型コロナウイルスの感染もワクチンで無害化しながらも謙虚に、文字通り万物共生みの生命文明再構築をめざすべきではないでしょうか。

## 【表紙絵解説】



この度の表紙絵画は、市内近戸町にお住いの大野実耶さんが、令和元年度第四十九回武甲山図画展において、埼玉県知事賞を受賞した秩父第二中学校三年生時の作品を掲載させて頂きました。

ご本人によると「今回は下寺尾からの風景を描きました。毎年武甲山を描いてみて毎日見ていると気が付くのですが、過去に描いた絵を見比べてみると削られていく姿と植えられた木の成長を感じる事が出来ました。

秩父神社さんには私だけでなく、母も姉も命名をして頂きお宮参りや七五三と小さな頃からお参りをして、繋がりがあるのだと感じました。特に社報の社殿彫刻解説を楽しみにしていました」とお話し頂きました。今後益々のご活躍を期待しております。

## 【表紙歌解説】

あらたふと 青葉若葉の 日の光

はせと (松尾きき)

世の中は、新型コロナウイルス感染症の世界的大流行で連日その対策に追われ、その上国内では梅雨時の集中豪雨で九州地方に甚大な被害が報じられるなど、相も変わらず天災人災ともつかぬリスク社会の様相ですが、それも多きは人間社会の騒ぎだけで、自然世界は季節の循環に合わせて確実にいのちを刻む。そのことを今回の表紙を飾ってくれた大野実耶さん秀作の夏空に緑輝く武甲山を拝見して、今更ながら俳聖芭蕉の名句を採りあげました。

◆ 退任 挨拶

前 禰 宜 新 井 直 行



この度、三月三十一日附を以て禰宜職を退任致しました。顧みれば昭和五十二年春、先代園田武男宮司様のお計らいにより、実習生として奉職以来四十三年の長きに亘り無事神勤奉務が叶いました。思えば例大祭御神幸行列の順路が大通りに変更になった年のスタートでした。

もとより浅学な者でありましたが、諸先輩皆様の篤い御指導を受け何とか務まるようになり、先代武男宮司様、現稔宮司様、建権宮司様三代に亘りまさに昭和・平成・令和の御代、仕えられたのも、大神様のご加護の下、職員各位の協力と歴代奉賛会長様はじめ各大会代皆様方の温かい御指導の賜物と感謝申し上げます。

また、氏子各講元・地区総代、祭事・行事長皆様の温かな応援や親しく接して頂いたことに改めて御礼申し上げます。この間、神社の各種記念事業・境内整備事業なども一員として務めさせて頂いたことは大きな経験となりました。昭和六十三年秋ユーロパリアジャパニなる欧州最大の日本文化芸術祭がベルギーにおい

て開催された折秩父屋台囃子連にお供し、参加したことは大きな体験でした。

また入社当初より温めておりました氏子青年会の結成立ち上げが実現となり、苦労はありましたが稔宮司様、初代会長今井奎吾様始め各役員会員の皆様には公私共に大変お世話になりました。中でも、平成五年秋、第六十一回神宮式年遷宮では、正に千載一遇の機会を頂き神宮宮掌補として、内宮遷御のご奉仕をさせて頂いたことは神職人生においても名誉であり有難い経験であり、懐かしき思い出されます。

今後は、囑託として、また郡内の一宮司として神明奉仕を続けたく存じますので何卒宜しくお願い致します。結びに、秩父神社の御隆盛はもとより皆様方の御清業を祈念申し上げます。退任の御挨拶とさせて頂きます。

◆ 就任 挨拶

禰 宜 大 澤 孝



此の度、永年に亘り当神社に御奉仕くださり、何かとお尽くし頂いております。新井直行禰宜の後任として、四月一日付を以ちまして禰宜を拝命致しました。

就任 挨拶

氏子青年会会長 大 島 隆 芳



令和二年度総会におきまして会員皆様からの承認を頂き、秩父神社氏子青年会第13代会長に就任いたしました。本町の大使です。偉大なる歴代会長の皆様からのバトンを確認に受け、諸先輩方の作り上げてきた氏子青年会会長の名を汚さぬよう、精一杯務めさせて頂きます。

本年度はコロナウイルス蔓延防止の観点から総会も書面決議とし、諸活動も自粛しなければならぬ苦難のスタートとなりました。ですが明るい未来を見据え、会員同士が秩父神社の隆昌、そして伝統文化継承のために手を携えて、活動していく所存です。

また今年度は、県内氏子青年団体との連携を図り、来年大宮で執り行われます、全国氏子青年協議会関東連絡協議会・埼玉大会への協力も視野に入れ、会員にも周知を行ってまいります。

結びに、当会へご理解、ご鞭撻頂いております。園田宮司をはじめ秩父神社職員の皆様、協力会の皆様に変わらぬご指導を賜りますこと、また会員の皆様のご会事業への参加協力をお願いし、併せて山崎前会長にご慰労を申し上げ、新役員代表の挨拶とさせて頂きます。

退任 挨拶

氏子青年会前会長 山 崎 仁



このたびの総会におきまして、大島新会長の誕生をもって、会長を退任することとなりました。一期二年、誠に微力ではございましたが、宮司様をはじめ神社職員、会員の皆様にはご指導ご協力いただき、無事大役を務め終える事が出来ました事、感謝申し上げます。

就任中を振り返りますと、平成から令和へと新元号が変わり、天皇陛下の御代替りを祝う「天皇陛下御即位をお祝する国民祭典」に参列させていただきました事は、大変貴重な経験となりました。又、当氏子青年会の創立三十周年という節目に会長を務めさせて頂いたとき、数々の事業、記念式典を開催し多くの皆様とお祝いできたことは、誠に喜ばしいかぎりです。

この度の新体制では、更に若さと活力溢れる活動で益々の氏子青年会の発展に期待を寄せ、会員の皆様方のご健勝ご活躍をご祈念申し上げます。退任のご挨拶とさせて頂いたきます。

◆ 退職のご挨拶

前 禰 宜 守 屋 通 夫



この度、令和二年三月末日をもって退職致しました。平成三年に奉職以来二十九年の長きに亘り、微力な私でございましたが大過なく、今日を迎えましても偏

素より浅学非才の身にて職責の重大さを痛感致しておりますが、この上は御神慮を畏み御加護を仰ぎ、御神徳の宣揚と御社頭の隆昌に更に精励致す所存でございます。

顧みませば、昭和五十八年四月に御神縁を戴いて奉職以来、神社関係者を始め氏子崇敬者皆様方の温かい御指導と御鞭撻により今日まで支えて頂きました。改めて有難く心より深謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症拡大による新しい生活様式が模索される昨今、これからの神社の有り様や護持運営を如何に為すべきかが問われる等、世は正に多事多難であります。

及ばずながら私も関係各位と愈々一致協力して、自分に与えられた職務を全う致したく存じます。今後とも格別なる御指導を賜りますようお願い申し上げます。就任のご挨拶と致します。

前 禰 宜 小 嶋 遼



この度、一身上の都合により平成二十四年四月より奉仕させて頂いたいただきました秩父神社を退職致しました。

八年間という長いようで大変短い期間でしたが、神明奉仕に勤められてきたことは、ひとえに皆様のご指導とご協力の賜物であると信じる次第です。この場をもちまして感謝を申し上げますと共に、秩父神社の神様のご加護の下、氏子崇敬者の皆様のご健勝と秩父地域の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。大変お世話になりました。

名譽会長	大 島 隆 芳
顧問	園 田 建 代 (権宮司)
幹事	手 島 博 樹 (権禰宜)
監事	伏 見 孝 (上宮地)
常任幹事	内 田 光 輝 (阿 保)
	澤 山 英 男 (東 町)
	七 十八 名

氏青創立三十周年報告

記念誌部会長 中村文治

秩父神社氏子青年会は平成二年四月十五日、園田宮司様を中心に四百三十二名の会員で発足しました。

『秩父神社を中心に文化的なマチ造りを推進する志の下に、全国氏子青年協議会綱領の精神に基づき、清く、明るく、美わしい社会の建設に努め、地域の繁栄と調和に寄与する』

総務部長	園 田 建 代 (権宮司)
副総務部長	正 田 裕 幸 (中 町)
事業部長	丸 岡 庸 一 郎 (東 町)
副事業部長	原 嶋 清 一 (上 宮 地)
相談役	山 本 惠 一 (中 町)
直前会長	吉 田 孝 昭 (上 宮 地)
副会長	井 深 孝 昭 (東 町)
幹事	大 澤 理 幸 (中 町)
副幹事	新 井 豪 一 (東 町)
相談役	小 石 川 康 彦 (東 町)
	大 總 代 心 得 (大 畑)
	山 崎 仁 (大 畑)
	大 島 隆 芳 (本 町)
	関 根 大 介 (中 町)
	中 村 文 治 (東 町)
	守 屋 太 一 (上 宮 地)
	塚 越 亮 一 (本 町)
	市 川 幸 司 (中 町)
	柏 葉 靖 夫 (金 室 町)
	長 谷 川 武 史 (宮 側)
	高 野 淳 道 (生)
	今 井 修 良 (番 場)
	小 川 篤 史 (中 村)
	赤 坂 元 規 (熊 村)
	中 島 俊 和 (中 木)
	西 貴 弘 (永 田)
	黒 澤 和 永 (本 町)
	新 井 球 上 (本 町)
	上 田 優 一 (番 場)
	町 田 博 寿 (熊 木)
	今 井 千 賀 男 (道 生)
	能 見 史 高 (本 町)
	中 田 洋 旦 (上 宮 地)
	本 田 隆 悟 (上 宮 地)



ことを目的とし、平成元年十二月社報創刊号に「氏子青年会会員募集」の記事が掲載されたことが、本会発足の第一歩でした。

全国氏子青年協議会定期大会参加武甲山登拝、三峯神社「みそぎ」研修会、寶登山神社研修会、夏冬の勉強会、境内清掃、そして秩父神社恒例祭の助勤など多くの事業を通じて交友を深めてまいりました。そして平成三十一年四月に目出度く創立三十周年を迎えました。

そして、「令和」の御代替わりを迎え、令和二年二月二十九日に記念事業を開催するはこびとなりました。山崎仁会長の号令の下、大島隆芳実行委員長を中心に各部会を編成し、



これまで氏子青年会を創り上げ発展させて来た先輩方に感謝の気持ちを込め、創立の原点を忘れず、これからの成長を決意しました。そして更なる結束を誓い創立三十周年記念事業に臨みました。

平成三十一年二月に実行委員会を立ち上げ、大島実行委員長を中心に各部会長は部会を編成し準備をまいりました。

- ◆ 祝賀会部会 内田光輝部会長
- 祝賀会開催 鏡開き
- ◆ 記念事業部会 澤山英男部会長
- 記念植樹「しだれ柳」
- 講演 落語家 三遊亭鬼丸師匠 「落語的生き方のすすめ」



- ◆ 記念誌部会 中村文治部会長
- 記念誌発行
- ◆ 記念品部会 関根大介部会長
- 梟タイタツ
- 手拭い製作
- ◆ 式典・総務部会 手島孝部会長
- 式典統括
- 招待者・表彰者名簿・招待状

去る、二月二十九日、秩父神社参集殿神の間に於きまして、秩父市長久喜邦康様をはじめ多くのご来賓の皆様、秩父神社園田宮司様ご列席の下、神社職員、協力会、氏子青年会歴代会長、会員、総勢



百七十余名の参加により記念式典が盛会に執り行われました。

式典ではこの十年間にご尽力頂いた特別功労者五名、功労者十二名に表彰状と記念品、秩父ユースソフトボールクラブ様他七名に感謝状と記念品が贈呈されました。

記念事業では平成殿前に於いて「しだれ柳植樹」、続いてロビーで落語家の三遊亭鬼丸師匠による講演を開催致しました。

その後参集殿神の間に移り、鏡開きにより祝賀会が盛大に催されました。来賓・会員で氏子青年会の三十年間を振り返り、会を創り育てて来た先輩達の思いと、そして未来をおおいに語りました。

最後に記念事業に多くの企業、団体、個人の皆様より多大なるご支援を戴きました事を感謝申し上げます。

これからも秩父神社大神様のご加護のもと、会員の結束を強め、マ子造りに貢献し、更なる発展を目指して行きたいと思っております。



梟だより



◆ 鎮座二〇〇年奉祝事業

◆ 奉賛者御芳名簿(7)

神社扱い  
百万円 高野安之  
十万円 木村久美子・佐藤陽亮  
五万円 松本幸次郎

◆ 厚畳奉納

本町達磨會(塚越亮一会长)様より祝詞座用厚畳を令和元年例大祭に合わせて御奉納頂きました。



◆ 疫病除け茅の輪設置と朱札護符『素戔嗚尊』頒布

古来我が国では、自然災害は神の怒り・祟りとも考えられていました。時の天皇は自然災害の度に多くの神社に祭典を命じ国民の安



寧と災害の沈静を願われました。全国各地に残る夏の祭礼は、暑熱に流行る疫病を鎮める祈りが込められ、当社では古来から伝わる信仰に、京都の祇園祭が融合した『川瀬祭』が七月十九・二十日に行われます。

当社の摂社日御碕宮は素戔嗚尊を鎮祭しています。縁起によると「天武天皇白鳳四年(六七六)天下疫病大イニ流行シ其ノ災禍ヲ攘ハンコトヲ祈ル為メニ國造奏請シテ社殿ヲ造営シ始メテ鎮祭セラレタリ」と記されています。

素戔嗚尊の強力な靈威で疫病災厄鎮めの御神徳を頂き、一刻も早い新型コロナウイルス沈静化と氏子崇敬者の皆様方の平穩無事を祈念し、境内には疫病除け『茅の輪』を三月十五日より設置致しました。

◆ 本年の川瀬祭り神事について

朱札は、生命の活性化、躍動感を表すといわれ、災厄を防ぐ色ともいわれる護符『素戔嗚尊』を奉製致しました。護符は玄関口にお貼り戴き、毎日の心の平穩をお保ち頂き度、無料授与しております。



◆ 秩父神社妙見講

自 令和 二年 二月  
至 令和 二年 七月

二月九日 坂戸妙見講  
小川直志講元外二十名  
四月十日 宮側講  
鈴木建志講元外五十二名  
四月二十五日 皆野妙見講  
宮前喜久江講元外百七十三名  
五月 五日 原谷講  
中西貞夫講元外四百五十五名

◆ 柞乃杜神前結婚式報告

五月十日 近戸講  
柴岡祐雄講元外百五名  
六月六日 熊木講  
六月二十日 日野田妙見講  
竹村庄三郎講元外百六十七名  
六月二十八日 下郷講  
浅見佳久講元外三百五十名  
七月五日 本町講  
小川裕司講元外百七名

本年より本町講 小川裕司様が新に講元に就任されました。どうぞ宜しくお願ひ致します。

◆ 職員辞令

権禰宜 浅見知史 神職身分二級昇級 (三月一日付)  
禰宜 新井直行 願いにより職を免す  
権禰宜 守屋通夫 願いにより職を免す  
権禰宜 小嶋 遼 願いにより職を免す (三月三十一日付)  
権禰宜 大澤 孝 禰宜を命ず  
枝窪邦誉 実習生を命ず (四月一日付)

◆ 御社殿保存修理工事進捗状況

株式会社 小西美術工芸社



拝殿東面仕上り状況

今回の秩父神社の御社殿保存修理は本殿幣殿拝殿の各東面↓西面↓正面及び背面の順に行われます。工事期間は令和元年6月から令和5年12月の予定です。各面の工事期間は概ね1年半程度で計画されており、現在東面の作業中です。東面の足場解体は本年の10月頃を目指して作業を進めています。現在の東面御社殿の状況は、足場が架けられ、彫刻が取り外してあり、東面の漆工事は本殿及び拝殿の妻破風板が完了しています。また拝殿以外の建具は工房で漆塗りが完了し吊り込み迄工房にて保管しています。彩色は、拝殿の



太公望既存塗膜撤去作業

妻及び壁（彫刻の三羽の鸞）が完了し、本殿の妻の彩色を行っています。また取り外した彫刻の彩色は、弊社の日光工房にて彩色の作業を行っております。鍔金具も一旦取



張鸞彩色作業状況

り外し、弊社工房にて形の成型を行った上、漆にて金箔を押し、拝殿に関しては取り付けを完了しています。崇敬者の皆様、また参拝者の皆様に鮮やかになった御社殿東面の状況をご覧いただける様、安全に留意し作業を進めています。もう少々お待ちいただけますようお願い申し上げます。

◆ 新人紹介

実習生 枝窪邦誉



平成九年八月十八日生。埼玉県入間市出身。國學院大學 神道文化学部卒。

この度ご縁がありまして令和二年四月一日をもって秩父神社実習生を拝命致しました。

秩父神社に奉職できましたことを、この場を借りて感謝申し上げます。

大学を卒業したばかりで、勉強不足な未熟者ではありますが、皆さまに迷惑をかけないように、一刻も早く秩父神社に貢献できるように邁進する所存であります。また、神職としての将来を見据えて日々研鑽し、神明奉仕を始め

とした神社での実践と経験とを通じて神職としてのあるべき姿や必要な能力を追究する所存であります。秩父神社の皆さまを始め、氏子崇敬者や地域の皆さまのご指導ご鞭撻よろしくお願い致します。

編集後記

■ここに社報柞乃杜第六十一号をお届けいたします。

■今を遡る事二〇〇年前の貞観年間には災害疫病に苛まれました。時の清和天皇は神社への祈りを欠かしませんでした。「年々歳歳花相似たり」とは言え、このような世界が訪れるとは誰もが予想だにしかかった事でしょう。どうか一刻も早くこの悪しき疫病新型コロナウイルスが収まる事を願ひ祈り続ける所存です。

※ 本報の用紙は再生マツト紙を使用しています。

令和二年(二〇二〇)七月二〇日  
編集 秩父神社 社務所  
〒361-0044 埼玉県秩父市番場町一三  
TEL (0494) 221-0262  
FAX (0494) 241-5596  
印刷所 有限会社 拡文社印刷所  
〒361-0044 秩父市東町二七一八